

令和5年度 事業報告書

社会福祉法人 広虫荘

特別養護老人ホーム 広虫荘

(短期入所・デイサービスセンターひろむし)

特別養護老人ホーム 和気広虫荘(短期入所)

ケアハウス わけ

グループホームひろむし

令和5年度 事業報告

社会福祉法人 広虫荘

・会議、委員会の実施

(1) 役員会議については、以下の通りである。

理事会・評議員会については、概ね計画通りの実施ができ、事業計画・報告、補正予算計画、各規定等の改定、理事長の専決事項の報告等を行った。

理事会（理事6名）の開催

5年6月5日・5年6月22日・5年12月4日・6年3月4日 年4回開催

評議員会（評議員7名）の開催

5年6月22日・5年12月12日・6年3月19日 年3回開催

会計監査の実施

監事による監査 5年5月23日 に実施

(2) 苦情解決委員会を開催し、第三者委員に苦情及び事故等の報告を行い、客観的な視点でのアドバイスを受けた。

苦情解決委員会の開催（第三者委員：2名参加）

5年11月29日 に実施

(3) 各会議の開催について

コア会議、管理者会議、サービス課長会議、栄養士会議については概ね計画通り実施ができた。

コア会議（理事長、施設長）毎週月曜日 9：00～10：00

管理者会議（理事長、施設長、事務長、課長）毎月 第一月曜日 9：30～10：30

サービス課長会議（理事長、サービス課長）毎月 第三火曜日 9：30～10：30

栄養士会議（理事長、施設長、(管理)栄養士、)毎月 第二火曜日 14：00～15：00

・人材確保

外国人雇用 技能実習生の受け入れ

技能実習生の監理を行う「ICS 協同組合」と令和5年8月31日付けで「外国人技能実習生受入に関する契約書」を締結し、令和5年10月30日から11月3日、現地（インドネシア）に出向き面接を実施した。日本語レベルN4（日本語能力試験レベル）取得者2名の受け入れを決定した。

・地域における公益的な取り組みの推進

(1) 生活困窮者支援事業

食糧支援事業 暮らしサポート事業：(フードドライブの実施)

赤磐市暮らし・しごと応援センターとともに生活困窮者の自立生活を支援するため、食品の寄付募集を行い、配布を行った。

安心すまいサポート事業

赤磐市暮らし・しごと応援センターとともに、緊急的・一時的に生活困窮者の宿泊場所の提供を3名に行った。

和気町社会福祉法人連絡協議会

生活困窮者のサポートとして、(フードドライブ)食料品等の寄附募集行い、配布を実施した。

能登半島地震

厚生労働省より能登半島地震の発生に伴う介護職員等の派遣要請があり、1月19日~23日に1名の介護福祉士を派遣する。

・令和5年度 運営・事業の取り組み

(1) 運営状況

<広虫荘拠点>

区 分	特養広虫荘	短期	通所
利用定員(人)	110	空床型	19
稼働日数	365	365	304
稼働率	85.8		34.5
1日の平均入居・利用者数(人)	94.4		6.5
(目標値:人/日)	105		15
利用延べ人数(人)	34,533	41	1,984

特別養護老人ホーム広虫荘の年間稼働率を95%として運営を推進したものの、今年度も4月早々に新型コロナウイルス感染症による大規模クラスター(32人)が発生したこと、退所者数が例年(過去4年平均約36人)に比べ多く(54人)、新規入居者数(52人)が追いつかない状況となりました。結果的に年間稼働率が85.8%となり目標を大きく下まわりました。

デイサービスセンターひろむしでは、目標の平均利用者数を15/日としていたが、新規利用者登録数7人に対して利用中止者数が11人となり目標を大きく下まわりました。

<和気広虫荘拠点>

区 分	特養和気広虫荘	短期入所
利用定員(人)	100	空床型
稼働日数(日)	365	365
稼働率(%)	94.1	
1日平均利用者数(人)	94.1	
(目標値:人/日)	95.0	
利用延べ人数(人)	34,337	18

特別養護老人ホーム和気広虫荘の年間稼働率95%を目標に入所の調整を行ってきた。今年度の入所者・退去者数は例年と同様であった。入院者は前年度と比べ、25%減少したものの、新型コロナウイルス感染症の影響によりスムーズな入所に至らなかった事により、最終的に年間稼働率が94.1%となった。

<ケアハウス拠点>

区 分	ケアハウスわけ
利用定員（人）	30
稼働日数（日）	365
稼働率（％）	94.9
1日平均利用者数（人）	28.4
（目標値：人/日）	28.5
利用延べ人数（人）	10,430

ケアハウスわけの年間稼働率95%を目標として活動してきた。入居者・退去者数は昨年度と同様であったが、新入居者の健康面等で延期になったり調整に手間取った。また入院者数も14%増加した事により目標の達成はできなかった。

<グループホーム拠点>

区 分	グループホームひろむし
利用定員（人）	18
稼働日数（日）	365
稼働率（％）	96.5
1日平均利用者数（人）	17.4
（目標値：人/日）	17.1
利用延べ人数（人）	6,360

グループホームひろむしは3月31日現在利用者17名となっているが、稼働目標の95%の達成は出来た。前年度と比較して、退去者も4人と比較的に少なく、入院者も4割減少したことにより、96.5%となった。

(2) 事業の取り組み

<広虫荘>

法人としての年間テーマを踏まえ、以下の取り組みを行った。

- ・最後まで口から美味しく食べられるように食事形態については多職種連携を小まめに図り経口摂取を継続する事ができました。
- ・コロナ禍による利用者様とご家族様との係わりについて、主に生活相談員、看護職員を中心に丁寧な生活状況の説明ができました。看取り期における面会も回数制限を設けず、ご家族様から納得が得られたと考えます。
- ・令和4年度から開始した「慰霊会」を令和5年度より「偲ぶ会」と名称変更するとともに、今後の介護、看護に活かすためのチームケアの振り返りを行う事ができました。
- ・危機管理体制強化の観点から、外部研修への参加（虐待、人権）外部講師の現地研修（感染症及びハラスメント）を実施し、また、各種BCPの見直し、整備を行いました。
- ・ご家族に対して担当介護スタッフより日頃の様子を手紙と写真でお伝えする（年1回）また、広報誌を3ヵ月に1回発行し、ご家族、関係機関等に送付しました。
- ・感染状況に応じて面会方法を変え、面会機会の継続をすることができた。

<和気広虫荘・ケアハウスわけ・グループホームひろむし>

法人としての年間テーマを踏まえ、次の取り組みを行った。

- ・ただ生きることを支援するのではなく「善く生きること」を支援するために、入所者へは敬語

で接し、目線を合わせてのケアの取り組みを前年度に引き続き行った。

- ・「口からおいしく食べられるように、楽しみを支援」するために、「食べること」に関する研修や演習の実施、入所者の状況に応じた食べやすい環境整備、食事形態に関するこまめな多職種連携を行い取り組んだ。
- ・日常の中で個別ケアのために創意工夫ができるよう、各職種の連携や委員会等の活用で入所者に満足して頂けるケアに努めるよう取り組んだ。
- ・余暇活動の充実として大きな行事だけではなくそれぞれの趣味や個人の生活リズムに合わせてのグループ活動や個人活動の実施に取り組んだ。
- ・コロナの影響で規制をしていた面会を緩和し対面での面会（時間、人数規制有）を再開しご家族にも安心していただけた。（看取り期の場合はコロナ渦も対面面会実施）
- ・ご家族への毎月1回のお手紙の送付は継続しての取り組み。
- ・地域の活動や多様な主体との連携・協働により地域とのコミュニケーションを図ることができた。また、実習生や課外活動等の受け入れも行った。
- ・入居者やご家族との個人面談や意見交換会等を実施することで入居者同士の関係の緩和剤としての役割やご家族の不安の解消になるように努めた。（ケアハウス）
- ・看取り期のケアは個別ケアをチームで行うこと、本人や家族も一緒にかかわることで看取った後のご家族からの「きちんと見送れました」との思いを頂くこと多く職員への返しもできたと思う。今後もこの姿勢を大切に取組んでいく。
- ・危機管理体制の強化として人権、虐待、ハラスメント、事故、感染症に対する研修の実施や外部研修への参加をすることで職員の意識の向上に努め、各BCPの見直しや指針、マニュアルの確認を行った。

（４）研修・委員会の実施状況

以下の通り、各研修、会議、委員会を実施した。

<特養養護老人ホーム広虫荘>

会議委員会の実施状況

- ・運営会議 年11回実施<特養・通所 合同実施>
- ・衛生委員会 年11回実施<特養・通所 合同実施>
- ・入所検討委員会 年14回実施
- ・サービス会議 年7回実施
- ・身体拘束適正化委員会 年4回実施
- ・安全管理委員会 年3回実施
- ・感染症対策会議 年4回定期実施<特養・通所 合同実施> 年3回（随時実施）
- ・事故対策会議 年13回（随時実施）
- ・感染予防委員会 年11回
- ・身体拘束・虐待防止委員会 年11回実施
- ・事故・災害防止委員会 年11回実施
- ・褥瘡予防委員会 年11回実施
- ・レク。リハ広報委員会 年11回実施
- ・給食委員会 年11回実施
- ・排泄委員会 年11回実施

研修の実施状況

- ・BCP（感染症）に関する小規模単位の施設内研修を5月～7月にかけて実施。6月には食中毒予防の施設内研修を実施。11月には東備保健所の方々による「個人防護具の着脱」実地研修と質疑応答を実施。

- ・消防訓練については、6月と11月、3月に避難誘導（日中・夜間想定）訓練と消化、通報訓練を実施。
- ・高齢者虐待防止の基礎知識について理事長を講師として4月に実施。赤磐市主催の虐待防止研修に施設長他4名の職員を派遣し、同様の内容を広虫荘に照らし合わせた施設内研修を10月（3回に分けて）に実施。また、委員会独自の身体拘束、虐待防止研修を2月に実施。
- ・令和5年9月に発生した誤嚥事故を受け、事故発生時の手順書の見直しと有事の際の演習を10月（3回に分けて）に実施。また、委員会独自の危険予知（KYT）研修を11月に実施。
- ・褥瘡予防に関する施設内研修を8月と2月に実施。
- ・ハラスメントの基礎知識について理事長を講師として4月に実施。また、外部講師を招へいし、パワーハラスメントに特化した研修を8月に実施。

<デイサービスセンターひろむし>

会議委員会の実施状況

- ・職員会議 年3回実施
- ・モニタリング 年2回実施
- ・身体拘束、虐待防止委員会 年1回実施

研修の実施状況

- ・BCP（感染症）に関する小規模単位の施設内研修を5月～7月にかけて実施。11月には東備保健所の方々による「個人防護具の着脱」実地研修と質疑応答を実施。
- ・高齢者虐待防止の基礎知識について理事長を講師として4月に実施。通所事業所独自の研修を2月に実施。
- ・ハラスメントの基礎知識について理事長を講師として4月に実施。また、外部講師を招へいし、パワーハラスメントに特化した研修を8月に実施。

<和気広虫荘>

会議委員会の実施状況

- ・職員会議 年12回 <特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施>
- ・運営会議 年12回 <特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施>
- ・サービス会議 年12回 <特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施>
- ・身体拘束等適正化委員会 年4回実施 <特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施>
- ・安全管理委員会 年4回実施 <特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施>
- ・事故災害防止委員会 年12回 <特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施>
- ・褥瘡対策委員会 年12回 <特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施>
- ・身体拘束廃止虐待防止委員会 年12回 <特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施>

<和気広虫荘>

- ・入所検討委員会 年間21回
- ・感染症対策委員会 年15回
- ・研修委員会 年12回
- ・サービス向上委員会 年12回
- ・レクリエーション委員会 年12回
- ・入浴委員会 年12回
- ・生活環境委員会 年12回
- ・排泄委員会 年12回
- ・口腔ケア委員会 年12回

- ・給食委員会 年12回
- ・地域ケアカフェ委員会 年6回

研修の実施状況

- ・BCP（自然災害・感染症）2回実施 訓練1回（5年12月25日）実施
- ・施設内研修 年12回実施

<ケアハウスわけ>

会議委員会の実施状況

- ・職員会議 12回
- ・感染症対策委員会 年7回
- ・地域ケアカフェ委員会 年6回

研修の実施状況

- ・BCP（自然災害・感染症）2回実施
- ・内部研修 年12回実施

<グループホームひろむし>

会議委員会の実施状況

- ・職員会議 12回
- ・感染症対策委員会 年2回
- ・地域ケアカフェ委員会 年6回

研修の実施状況

- ・BCP（自然災害・感染症）2回実施 訓練1回（5年12月25日）実施
- ・内部研修 年12回実施